環境教育ミーティング報告書　No. 73

MEET

Miyako Environmental Education Times

発行：環境教育プロジェクト　平成26年（2014年）7月1日（火）

第73回の「環境教育ミーティング」は長岡京市の後援をいただき、長岡京市立中央公民館と共催で、5月15日（木）に開催しました。

西村が司会進行役を務め、IPCCリポート コミュニケーター事務局から提供された短編の映像を通して、私たちの暮らしと地球の温暖化について意見を交換しました。

疑問や要望は事務局を通して環境省等に届けます。

【主な映像】は以下の通りです。

「私たちの暮らしと地球温暖化」
「今、何が起きているのか」
「科学者インタビュー」
「CO2循環のしくみ」
「IPCC　AR5の舞台裏」

参加者の感想

1

今回初めて環境教育ミーティングに参加させていただきましたが、あらためて地球の温暖化の進行が確実に進んでいる現状と、対策は一刻の猶予も許されないことを認識しました。そして、出席された皆さんの環境対する意識や知識の高さに驚き、とても刺激を受けました。私も、日常の中で少しでも環境に配慮した行動がとれるように日々努力したいと感じました。そして、このようなミーティングが今後も多く開催され、個人や団体で行える地球温暖化に対する取り組みをお互いに情報交換し、より効果的な対策について議論できるような機会になっていってもよいのではないかと感じました。

2

IPCC の報告について映像によるわかりやすい説明によって二酸化炭素等の温室効果ガスがもたらす気候変動の状況がより一層明確になってきていることを学ばせていただきました。また、ミーティングの参加者から地球温暖化問題の内容を通して、人口問題や食糧問題、教育問題へと幅広い意見交換がなされたことは、有意義であったと思います。

意見を聞きながら地球の温暖化による気候変動に対する特効薬のような根本的な解決方法はないのではないかと強く感じました。であるなら

ば、現状で推移した場合の将来の地球の姿を想像しながら、今を生きる私たちが、自分自身で出来るところの課題に着実に取り組むとともに、身近な人達へ地球温暖化の問題意識を広げ、深めていく以外に道はないのではないでしょうか。その意味において、平成26年度の環境教育ミーティングのテーマが「環境と持続可能性」を掲げていることに大きな意義があり、問題解決への糸口があるのではないかと思いました。

3

京都府の木原様がご発言された「クライメートゲート事件」の指摘が有りましたが、報告書に対する信頼性を揺らぐものとは考えておりません。

全体として、今回のIPCC/AR5 の内容は科学的根拠に基づいた的確な報告だと評価します。

只、IPCC/SR5 を受けて、国際気候変動枠組条約(UNFCCC)の締結国会議(COP)において、世界の新興国・開発途上国と先進国が協調できない現実あり、IPCC の報告が生かされない状況に疑問を感じます。

英国エコノミスト誌は「科学に基づく政策」ではなく、「政策に基ずく科学」と評しています。

日本におけるエネルギー問題も同様に、化石燃料による温暖化問題と原発稼働による使用済み核燃料問題、再生可能エネルギーの充足など、しっかりした政策が進まないのも同様ですね。

雑なコメントになりご容赦下さい。

4

以前参加させて頂いたころより、コアなメンバーがとても専門的になっておられるので、驚きました。皆さんとても勉強されているんだなと思いました。

今回の DVD を見ながらのお話は分かりやすく、地球の温暖化は一刻の猶予もない問題だとよくわかりました。

ありがとうございました。

5

ビデオを見せていただいて地球が悲鳴を上げているという実感と今まさに手立てを施さないと人類が生き残れるのかという危機感を持ちました。

人間というのは本当に自分の目の前で起こる事象には真剣になれても、地球規模という環境破壊には実感がわきにくいのが実情です。

テレビや新聞でこのような環境破壊の実態を頻繁に報道してほしいと思います。

たとえば煙草のマナーを訴える JC の広告のように、IPCC がスポンサーになって全世界のテレビで地球の危機を訴えるスポットを 1 日数回流す。また新聞に週 1 回掲載する。そんな取り組みができないかと思います。

ミーティングの折、様々な質問にわかりやすく答えてくださった木原さんは、さすがに京都府地球温暖化防止活動推進センターの中心者として活動されている方と感動しました。